



人工関節置換術では、最近では股関節置換術が急激に症例数を伸ばしている。膝関節では、より低侵襲の両膝同時置換術が主流になっているという

「西の京脊椎人工関節センター」を開設 高いノウハウと技術でMISを実現する

医療法人 康仁会 西の京病院

脊椎と人工関節に特化した センターで実績を伸ばす

西の京病院では、2010年4月に「西の京脊椎人工関節センター」を開設した。センター長を兼務する植田康夫副院長は、「脊椎と人工関節に特化したことによって、患者さんへの認知度も上がり、提供できる手術や成績を患者さんにお示しして選択していただくことが可能になりました。なかでも人工関節置換術は、

MIS(最小侵襲手術)

高いノウハウや技術を要しますが、この新しい施設とハイレベルな技術力で患者さんにとつての安心医療を実現することができず」と話す。

西の京病院における整形外科手術は、2011年1〜12月で976件。その内訳は、人工関節手術が321件、脊椎手術が136件、マイクロスルット手術が2件で、その他が517件となっている。人工関節手術では、人工膝関節置換術が232件で、人工股関節置換術は57件、その他関節手術では32件の実績を誇る。手術にあたっては、MIS(最小侵襲手術)を心がけている。「皮切をできるだけ小さくすることはもちろんですが、筋肉を切らないで温存するようにしています。侵襲度を抑えることで、出血や痛みも少なく、翌日からリハビリを行い



植田 康夫 副院長

うえだ・やすお●1984年、奈良県立医科大学卒業。医学博士。県立奈良病院整形外科、松阪中央総合病院整形外科医長、国保連合中央病院整形外科医長を経て、97年に西の京病院整形外科医長。2006年、副院長兼整形外科・リハビリテーション科部長。10年、西の京脊椎人工関節センター長を兼務。日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本リウマチ学会認定リウマチ専門医、日本救急医学会認定救急科専門医

早期社会復帰が可能になりました」と植田副院長。もともと同院では奈良、京都、大阪はもちろん、全国から患者が来院するため、ADL(日常生活動作)を重視したリハビリを実施している。「遠くから来られる方が数多くいらつしやるので、ご自宅に帰った度々受診する必要があるという、日常の生活がきちんとできるようになるまでお世話します。人工関節置換術の手術はつらいとお思いかもしれませんが、それは一時的なもので、その後は痛みもなくなり、夢を実現し、新しい人生を歩まれる方がたくさんおられます。『年をとったから、もうだめだ』と我慢し、あきらめるのではなく、一生歩いてもらうというのが私たち医師の一番の願いです」



センター2階にあるリハビリテーション室。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など37人のスタッフがいます



「安心」と「信頼」の医療を目指す西の京病院

DATA

医療法人康仁会
西の京病院

〒630-8041

奈良県奈良市六条町 102-1

TEL●0742-35-1121

FAX●0742-35-1160

http://www.nishinokyo.or.jp/

診療科目●内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、眼科、麻酔科(院長登志)、リウマチ科、美容外科、血管外科、歯科、救急科

受付時間●月～土 8:30～12:00

月・金(夜診療) 18:00～19:30

休 診●日・祝